

令和元年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：令和2年1月15日（水）

15時00分～

場所：東温市役所4階 大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

（1）地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について・【資料1】

（2）市内バス路線の利用状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料2】

（3）令和2年度取組概要（案）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3】

（4）その他

4. 東温市地域公共交通アドバイザーによる講演

（香川高等専門学校准教授 宮崎 耕輔氏）

5. 閉会

<事前送付資料>

【資料1】地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）

【資料2】市内バス路線の利用状況

【資料3】令和2年度取組概要（案）

令和元年度第2回

東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）出席者名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長	大石 秀輝	
2	伊予鉄バス株式会社	専務取締役	竹中 由紀夫	
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	稲荷 和重	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	田所 秀志	
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	上岡 大悟	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	青井 浩治	
8	東温市産業建設部	部長	丹生谷 則篤	
9	東温市区長会	会長	三棟 義博	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	田中 康雄	(欠席)
11	東温市婦人会	会長	高須賀 恵美子	
12	東温市PTA連合会	顧問	松本 司	(欠席)
13	東温市社会福祉協議会	会長	藤原 弘	
14	市民の代表（公募）		藤本 貞夫	
15	市民の代表（公募）		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	石丸 友健	
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	寺田 淳泰	(欠席)
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	西山 保幸	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	菊池 勝二	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	原田 久	

【アドバイザー】香川高等専門学校	准教授	宮崎 耕輔	
------------------	-----	-------	--

令和元年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 令和2年1月15日（月）15:00～16:30

会 場： 東温市役所 大会議室

1. 開会

進 行： これより令和元年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

2. あいさつ

会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

(1) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について

事 務 局： <説明（資料1-1）、（資料1-2）、（資料1-3）>

会 長： 何かご意見、ご質問等はあるか。

横 手： 河之内線上にある東谷小学校は、校区外の子どもも受け入れている少人数の学校である。この度市内の方ではあるが、路線バスを使って学校に通うことができないかという相談があった。路線バスで通学すると、5分の誤差が生じることになるが、地元の方々は、小学校を残したいという思いが強いため、小学生が通いやすい環境を作りたいということで地元と教育委員会と学校とで話し合いを行い、便宜を図ってもらえることとなり、今年1月から河之内線の路線バスに乗って通い始めたので、今後利用者は増えていくと思う。妹さんも今幼稚園に通われているので、今後も2人は通学で使っていただけたらと思うので乗車人数も変わってくるのではないかと思います。

藤 本： この事業は何年間の事業であるのか？

事 務 局： 単年度の事業である。

藤 本： 以前も申し上げたとおり、毎年同じ評価になっていると思うが、これで評価として通るものなのか？横手委員がされているような活動も取り入れて、事業の今後の改善点として観光も含めてこの路線の中の白猪の滝等をPRして、もう少し観光客を呼び込むといったことはないのか？

事 務 局： 今後は観光目的の利用者増も視野に入れて、来年度以降申請する計画での反映を検討したい。

会 長： この東谷地区では白猪の滝祭りなど、色々なイベントを実施しており、イベントごとには公共交通の利用をお願いしているが、なかなか利用が進まないという現状はある。今後一人でも多く公共交通を利用していただけるように、計画の文言の中にも反映することを検討していければと思う。

西 山： ご指摘のとおり、運輸局でももっとしっかりと審査していかないといけないと感じている。今年度の補助事業だが、基本的に単年度ということで、今回は地域の足を守っていくということをメインに審査している。東温市は来年度網計画の改定年度ということで、その中で新たに観光に関すること等も含めて議論していくと思うので、今年度はこの内容でご審議いただけたらと思う。

上 岡： 先ほど事務局から説明があったが、今回の事業評価の「事業の今後の改善点」のどこ

ろに来年度の計画改定にあわせて路線の詳細な分析を行うこと等を記載した方がいいのではないか。

- 会 長： 事務局の方で、先ほどご意見のあった内容を追記するようお願いできたらと思う。
- 事 務 局： 来年度の計画改定に合わせた取組等も、事業の今後の改善点のところに追記をさせていただく。
- 原 田： 公共交通ガイドとはどのような内容が掲載されているのか？また、全戸配布は行っているのか？
- 事 務 局： 全戸配布はしていないが、市役所の窓口や、東温市に転入してきた方への配布、公共交通のイベント時、高齢者サロンに訪問する際等に配布を行っている。内容については、東温市内のバスの路線図、時刻表、乗り方等を掲載してある冊子である。
- 原 田： 現在砥部町では網計画の改定を行っていて、その中で住民にアンケートを取ったりした際に、バス路線が存在していることも知られていないといった話があり、今後は公共交通の冊子を全戸配布したりするといったモビリティマネジメントに力を入れていくようなので、参考にしてみてもいいのではないかと思う。観光客でどれだけ利用者が増えるかはわからないが、日常生活でどれだけの方に使っていただけるかというのが大事であると思う。
- 会 長： 来年度の計画改定の際に、冊子の配布等の周知方法も含めてなお多くの市民の方に周知して利用を促せるような方法も事務局で検討していただきたい。
- 宮 崎： 2、3点確認をさせていただきたい。資料1-1の②車両減価償却費の補助であるが、これは車両購入の補助か？
- 事 務 局： すでに補助金としては交付が終わっているが、補助金をいただいた車両が山間バス路線の4系統で運行している。
- 宮 崎： 先ほど藤本委員がご指摘いただいたことは、ごもっともだと思う。しかし、今回議題に上がっているのは、この事業に対する事業評価となっていることから、利用者数が注目される指標となっている。藤本委員のご指摘は非常に重要なことであるため、協議会としての評価として、次年度以降、PDCAサイクルの考え方で進めるという方向に変えて行けばいいのではないかと思う。それから、先ほど皆さんがご指摘なされたことは、⑥事業の今後の改善点のところに、もう少し加筆していけばいいのではないかと思う。
- 会 長： 先ほど皆さんがおっしゃられたことも含めて、次年度の計画等に反映していければと思う。他に何かご質問等はあるか。
- 各 委 員： <質問・意見なし>
- 会 長： ないようなので協議会での自己評価として案の通り国に報告することとしてよいか。
- 各 委 員： <全員賛成>
- 会 長： 承認を得られたので、案のとおり決定し、国に報告を行う。

(2) 市内バス路線の利用状況について

- 事 務 局： <説明(資料2)>
- 会 長： 何かご意見、ご質問等はあるか。
- 藤 本： 乗り継ぎの調査というのは業者をお願いしているのか。

- 事務局：伊予鉄さんに乗降調査をお願いする際、あわせて横河原駅で降りた人がどのくらい駅舎に向かっているかというのを調査していただいている。
- 藤本：データでは駅舎に向かった割合が約88%となっているが、個人的にはこの数値に疑問が生じている。というのも、駅で働いている方に聞き取りを行うと、バスを降りた方は、その後あまり電車に乗っているのを見かけないという話も聞いている。何人横河原駅で降りて何人乗り継ぎをしているという結果なのか？ある程度は市の方で実際に乗り継ぎに関する調査を行ってみてもいいのではないかなと思う。川内営業所でバスを降りる方も多と思うので、乗り継ぎに関する調査も行い、きちんと横河原駅が乗り継ぎに関する拠点として機能しているかどうかという検証は必要ないのか？
- 事務局：前回の10月に行った10日間の調査によると、松瀬川線、井内線、河之内線、滑川線の4路線で、横河原駅で降りた人数が合計164人で、そのうち145人が横河原駅舎に向かっているという結果が出ている。あくまでも横河原駅で降りて駅舎に向かった人数となるので、イコール乗り継ぎした人とは必ずしもならないと思うができる限り調査している。先ほど言われた調査も、今後事務局の方で検討していきたい。
- 会長：先ほど意見の出た乗り継ぎに関する実態調査についても、事務局側で検討していただきたい。他に何かご質問等はあるか。
- 各委員：＜質問・意見なし＞
- 会長：ないようなので市内バス路線の利用状況について報告を終わる。

(3) 令和2年度取組概要（案）について

- 事務局：＜説明（資料3）＞
- 会長：何かご意見、ご質問等はあるか。
- 三棟：高齢者の免許返納について、東温市独自の制度を実施しているところだと思うが、そのようなことも公共交通の利用につなげる良いタイミングなのではないかなと思う。そういったことの推進は行っていないのか？
- 事務局：今行っている制度は、免許返納された方に1回限りではあるが、5,000円分のタクシーチケットもしくは伊予鉄のICい〜カードを交付している。
- 三棟：公共交通の冊子にも免許返納の制度があるというのを掲載したらどうか？
- 事務局：来年度新しい冊子を作成予定であるので、その際に掲載させていただく。
- 藤本：来年度新しい計画を作る予定となっており、計画の達成状況を確認するとあるが、これはどこで表されるのか？
- 事務局：現在の計画の目標指標に市民の満足度等の数値目標も入っているので、アンケート調査等を来年度行い、達成状況の確認をすることとしている。また、数値以外の取組事項も達成できたかどうか確認することとしている。
- 藤本：その状況は公表する予定か？また、計画策定事業は業者に委託して行うのか？
- 事務局：公表する予定である。計画策定事業は、予算が確保できれば、業者に委託して取り組む予定である。
- 藤本：前の計画を策定したときも同じことを思ったのだが、数百万円のお金をかける価値があるのかどうかと思う。何度も計画を策定しているので、市役所だけでもノウハウがあり、策定できるのではないかな？

- 事務局：丸投げで業者にすべてお願いするわけではなく、こちらで調査できることはしていきながら、バス路線の詳細な分析や、アンケート結果の集計、分析等は業者の方が特化していると思うので、お互いに考えながら取り組みたい。
- 藤本：平成27年度に網形成計画を策定した後で、何がどう変わり、利便性がどのように向上したとか、利用者が増加したといった効果をはっきりと出さないと、やっつけ仕事になってしまうのではないかと。次も数百万円のお金をかけるのであれば、効果の達成状況の分析をして、本当に次の計画が必要かどうかの検討を行うことが先に来るべきではないのか。どこかのタイミングで、今までの計画の効果があったといった評価の達成状況をわかるようにすべきであると思う。税金の無駄遣いにならないように、効果があるというのをより見える化してさらに発展させていくような進め方をしてほしいと思う。
- 藤原：地域公共交通というのはやはり、その地域に住んでいる方が、基本的に使うものであると思う。イベントなどで地域外の方の利用も促進していく一方で、地域に住んでいる方々が公共交通を使って移動したいという方向へもっていくことも大事であるから、今行っている取組は決して無駄であるとは思わない。現状を維持するという地道な取組も大事であると思う。また、今後免許返納された方はその後の移動手段として、家族や知人に送迎をお願いする、公共交通を利用するといった選択肢があると思うが、その中で、公共交通を使いたい人はどのような目的で使いたいのかという、地域の人はどのようなことを望んでいるかといったことを調査し、そのニーズに合った運行をしていくというのがより効果があるのではないかと。そのあたりもまた検討していただけたらと思う。
- 会長：次期計画は、業者委託という部分もあるが、丸投げというのではなく、今までの取組の検証やアンケート調査での分析といったことも行い、部分的に業者委託をし、策定して行っていただきたい。
- 藤本：前回、地域内フィーダー系統確保維持計画について、運行区域の住民意見を聞く必要があるのではないかと。次回の協議会までにどのようにするか検討をお願いしていたが、どのような結果になったのか？区長さんなどが中に入って、地元の人が公共交通についてどう思っているのか、利用する意思があるのか、数人の意見を聞いて、バスが必要という意見があっても、実際に走らせてみるとあまり利用されないということがあると思うので、実際に地元の人がどのように考えているのかという意見収集が重要でないかと思う。アンケートがいいかどうかはわからないが、地元で出た意見を区長さんなどにまとめてもらい、この協議会のメンバーに報告してもらおうと中身が見えてくるのではないかと思う。
- 事務局：高齢者サロンには以前お話をさせてもらいにいったが、まだ区長さんなどの地元の代表の方には意見収集というのはできていない。ご意見にあった、協議会に参加してもらい、意見を述べてもらうというよりは、事務局の方で区長さん等に聞き取りを行い、その時に出た意見等をこの場で報告させていくというのがいいのではないかと思う。
- 藤本：その中で、利用促進に関してなにか光が見えてくるような取組があるのではないかと？
- 事務局：意見を全部反映できるかどうかはわからないが、そのようなことも今後の聞き取り調査等で探っていければと思っている。

会 長： 来年度アンケートも取る予定かと思うが、地元の方の意見も聞きながら次期の計画に繋げていくよう進めていければと思う。

西 山： 運輸局から、次年度東温市が策定予定の公共交通計画に関する補助金等の説明を簡単にさせていただく。12月に各自治体に来年度の補助金の希望調査を行った。東温市からは来年度網計画の改定を予定しているので、その策定に係る事業の概要等を提出していただいた。来年度予算の今後のスケジュールだが、2月を目途に内容のヒアリング審査を国交省の本省から行い、その内容に基づいて3月中旬に補助額の内定がなされて、新年度、補助要綱が改定された後に実際に申請していただくという予定となっている。今年度実施されていた、網計画に基づく公共交通マップや総合時刻表の作成といった利用促進に要する費用の支援は廃止される予定となっている。網計画は平成26年に地域公共交通活性化再生法が改定された際、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成を促すため、網計画が法定計画と定められ、各自治体で策定されてきた。しかし、人口減少の本格化や、運転手不足の深刻化で、地域公共交通の経営環境が好転したとは言えない状況にある。そこで、今までの網計画の内容を活かしながら、地域における輸送資源を総動員する内容を加えることで、さらに持続可能な地域の旅客運送サービスの提供を確保することを目的とするものが新たな計画の概要である。今後はこの支援計画に基づいて、実際の事業についての支援に補助金の内容が移行していくことが想定されるが、現時点でははっきりと決まっていないので、公表は差し控えさせていただく。今後も新たな情報があればこの場で共有させていただくので、よろしくお願したい。

会 長： 運輸支局の方から、来年度活用予定の補助金についての概要等をお話いただいたが、先ほど委員の皆さんからいただいた意見等も踏まえて来年度改定予定の計画に反映していただきたい。

横 手： 川内にある健康センターが今建築中の福祉センターに来る予定となっていると思うが、今は路線バスツアーをする際に、川内支所の駐車場を申請したうえでお借りしてパーク&ライドをしているが、健康センターがこちらに来ることによって支所の駐車場に少し余裕ができて、パーク&ライドとして使いやすくなったりはしないのか？

事 務 局： 現段階では、建設中の建物になるので、はっきりとは申し上げられないが、川内支所や健康推進課等の担当職員に実現可能かどうか確認させていただく。

会 長： 他に何かご質問等はあるか。

各 委 員： <質問・意見なし>

会 長： ないようなので令和2年度取組概要（案）について終わる。

(4) その他

会 長： 先ほど愛媛運輸支局さんにお話をいただいたが、事業者として伊予鉄さんに今の状況報告等いただければと思う。

竹 中： 日頃から伊予鉄道及び伊予鉄バスをご利用いただき、感謝申し上げます。横手さんをはじめとする公共交通に関して熱心に取り組んでおられる方のおかげで、苦しいながらもなんとかバス路線が維持できているところである。この場をお借りして敬意を表したいと思う。さて、バス事業者の現状ということであるが、バス事業者が集まるとM

a a Sという言葉が必ず出てくるが、M a a Sについても今後このような協議会でも話し合いをしていくべきではないかと思っている矢先、今日ご講演いただく宮崎先生の資料の中にM a a Sの話があったので、後ほど宮崎先生の方から詳しい話があるのではないかと思うが、公共交通もこのM a a Sによって数年後には今の形をとどめず、大きな変化によって違うものになっていくのではないかとされている。具体的に言うと、皆さんが今お持ちのスマートフォンで現在地から行先を検索したら、行く方法と料金が出て、スマホで予約をして料金決済をして、乗車券の代わりにもなる。なおかつ現在の公共交通だけではなく、自動運転のライドシェアやタクシーの定額運賃等も含めてM a a Sの世界がやってくるのではないかとされている。これらの話は遠い未来の話ではなく、学者さん達によると、5年後くらいにはこのような世界が来るのではないかとされていて、目の前に迫っている世界なのではないかと思う。このような世界が来ると、現在の公共交通がどのような形になっているというのは来てみないとわからないが、今のうちから、このようなことが来た場合にどのようなことになるかという心づもりだけはしておいた方がいいのではないかと思う。この後宮崎先生のご講演があると思うので、外国の事例も聞きながら、遠い国の話なので我々には関係ないと思うのではなく、このような世界が愛媛県、東温市にもやってくるのだという気持ちで宮崎先生のお話を聞いていただいて将来のことなども考えていただければと思う。

会 長： 続いて、予約制乗合タクシーの現状を和田委員からお願いしたい。

和 田： 乗合タクシーについては、現状大きな動きというのはない。乗合タクシーは登録していただいた方であれば、どなたでも利用することができるのだが、実際の利用は地区住民の高齢者がほとんどを占めている。新規の方で利用いただく人が増えても、普段利用している人が入院したり、亡くなったりするので、どんどん利用が増えていくといった形にはなかなかならないというのが現状である。また、現在利用している方に何かご要望等ないかと伺った際に出たものとしては、帰りの便が現在11時30分と15時30分の2便だけなので、11時30分に乗れないと、15時30分まで待たないといけないので、そのあたりを改善できないかという声があった。便数を増やすと、1便あたりの利用者数が減ってしまうというのものもあるかもしれないが、利用者の方の現状を見ていると、便数を増やしてあげた方がいいのではないかと思うので、そのあたりを上林や下林の住民の方に聞き取りをして検討していただきたい。

会 長： 続いて、横手委員にみんなの公共交通を考える会の活動状況の報告をお願いしたい。

横 手： 今年度は5回開催し、4月の源太桜は参加者が23名、6月の白猪の滝は24名、滑川溪谷は7月の24日と31日の2回開催し、計54名の参加があった。4月の源太桜は愛媛新聞さんに取り上げていただいたり、6月の白猪の滝はNHKさんに取材に来ていただいたりして色々な方に周知できたと思う。11月の開催は趣向を変えて愛媛大学名誉教授の高橋治郎先生を講師にお招きし、川内の北方の断層を説明していただきながら、さくらの湯までの約3キロを散策し、さくらの湯から川内線を利用して、集合場所まで戻った。途中の医王寺で国の重要文化時である厨子を見せていただいたりした。参加者は29名だが、5～6名はお断りするような状況だった。参加者の3分の2は市外からで、松山市から東温市に向けてこのような路線があったのかと驚か

れた方もいらっしゃるだったので、温泉に向けて行くことができる等、周知ができたと感じている。高橋先生には次年度の夏の滑川を地質目線での探索を承諾いただいたので、また楽しいイベントが開催できるのではないかと考えている。これとは別に会員だけで行くちょっと旅というのもやっていて、4月と6月と12月の3回開催して、バス利用等をしている。

会 長： それぞれの委員さんから、様々な立場での現状報告等をしていただいたが、なにか質問等はあるか？

宮 崎： 今回の会の全体を通してのコメント等をさせていただきたい。東温市が平成27年度に策定している地域公共交通網形成計画の中で評価指標等を設定している。毎年度チェックできるものと、できないものがあると思うが、協議会の中で達成状況を確認できるような資料を作成してもいいのではないかと考える。本日の資料を見ていると、路線バスの利用者が減っているという印象を受けたが、これは地域の人口減少によるものや、今まで利用していた方もお年を召されてなかなか外出することができなくなった等の理由が想像される。実際にはどうかかわからないので、次年度のアンケート調査や高齢者サロンでのお話し等で情報収集をすると、何か実態がわかるのではないかと考える。免許返納については、広報誌等で周知するというのも一つの手だが、免許返納で警察署に行った際、警察署の方が各市町の免許返納された方への特例を紹介しているといった話も聞くので、警察署とタイアップして周知できればいいのではないかと考えた。免許返納について口コミで広まると、それだけで免許返納の促進に繋がるのではないかと考える。それから、乗合タクシーの件で、帰りの便が2便しかないのでも乗り遅れたら困るという話があった。これについては、状況が大きく変わってきているとは思いますが、当初乗合タクシーをスタートさせたときは、帰りの2便の時刻に間に合わないときは、一般の乗用タクシーをご利用いただくことを想定していたと思う。しかし、帰りの便まで長い時間待つことがあるのであれば、新たに整備するというわけではないが、どこか時間をつぶすことができる場所を作るというアイデアがあるのではないかと考える。このような時間をつぶす場所に、人が集まってくるという雰囲気ができれば、活気がある町にもなるように思う。このような考え方で、便数を増やさなくても、なにかできる取組もあるのではないかと考える。このようなことは、全てのことを行政がするのではなく、協議会のメンバーの皆さん方で、これだったら何かできることといったようなことを出していければ、より楽しく住めるような町になっていくのではないかと考える。

会 長：他に何かご質問等はあるか。

各 委 員： <質問・意見なし>

会 長： ないようであるので本日の協議、報告事項は終わらせていただく。

4. 東温市地域公共交通アドバイザーによる講演

<講師> 香川高等専門学校准教授 宮崎 耕輔 氏

5. 閉会

進 行： 以上で令和元年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会を閉会する。